



奈良県感染症情報

令和2年 第20週(5月11日～5月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 4月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.03	(0.35) →	→	→	↗
2	突発性発しん	0.26	(0.00) →	↑	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.21	(0.21) ↓	→	→	↓
4	咽頭結膜熱	0.09	(0.24) ↓	→	→	→
4	手足口病	0.09	(0.00) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

県内概況

定点把握感染症は、例年に比べて低い水準となっており、流行はみられません。
 新型コロナウイルス感染症については、第20週(5月11日～17日)に新たな感染者は報告されていません。
 流行状況は落ち着きつつありますが、社会活動が再開し、県をまたいだ人の移動が増加するにつれ再流行する恐れがあります。まず、感染予防の基本である手洗い、咳エチケットの遵守、集団感染のリスクが高い「換気が悪い密閉空間」・「多数の人が密集する場所」・「間近で会話などをする密接した場面」を避けましょう。また、体調不良の時は無理をせず外出を控え家で休み、集団発生の早期探知のために各施設の責任者等は、職員、従業員、入院患者、入居者、学生等の体調不良者数を把握しておきましょう。

小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

受診抑制か? 発熱患者は少なく、登録疾患の報告も少ない。
 白血球増多、CRP陽性の頸部リンパ節炎の患児があり、紹介入院した。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は依然少ない。
 登録感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

Aデングウイルス感染症、溶連菌感染症が見られる。
 遷延する軽症の呼吸器症状の児はみられるが、特定のウイルスは検出していない。
 全体に感染症は少ない。

出典: 首相官邸 HP



奈良県感染症情報

令和2年 第21週(5月18日～5月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 夏に流行するウイルス性の感染症
- 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.88	(1.03) →	→	→	↗
2	突発性発しん	0.29	(0.26) →	↑	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.21) ↓	→	→	↓
4	咽頭結膜熱	0.06	(0.09) ↓	→	→	→
4	伝染性紅斑	0.06	(0.03) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

県内概況

感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱をはじめとして、定点医療機関からの報告数は少ない状態で推移しており、県内での定点把握感染症の流行はみられません。

新型コロナウイルス感染症は、全国的にも新たな感染者の報告は少なくなっていますが、第二波による感染者の増加の懸念があるため、感染症の基本対策となる「手洗いの徹底、咳エチケットの実施、身体的距離の確保」を取り入れるとともに、十分な睡眠やバランスのとれた栄養摂取を心がけて体調管理を行いましょう。

夏に流行するウイルス性の感染症



これからの夏の時期に、「夏かぜ」と呼ばれる感染症がよく見られます。
 夏かぜは小児、特に乳幼児で流行し、多くはウイルス性のため特効薬はありません。
 しつかりと感染対策を行い、体調不良時には医療機関に相談しましょう。

【咽頭結膜熱(別名: プール熱)】原因: アデノウイルス

- ☆ 症状: 発熱、のどの痛み、目の痛み、結膜充血など。
 - ☆ 感染経路: 飛沫感染、接触感染。
 - ☆ 対策: 手洗い、うがい、感染者との密接な接触を避ける。
- タオル等の共用を避け、プールから出た際には十分、シャワーをあびる。

【手足口病】原因: エンテロウイルス

- ☆ 症状: 発熱、のどの痛み、口の中や手足の水疱性の発疹。
 - ☆ 感染経路: 飛沫感染、接触感染。
 - ☆ 対策: 手洗い、うがい、感染者との密接な接触を避ける。
- 感染者の便には、症状が回復した2～4週間後もウイルスが排泄されているので排便後やおむつ交換後の手洗いを徹底する。
 口内の痛みをのせいで、水分摂取が不足することがあり、こまめに水分を補給させる。

【ヘルパンギーナ】原因: エンテロウイルス

- ☆ 症状: 発熱、のどの痛み、口の中の水疱性の発疹など。
 - ☆ 感染経路: 飛沫感染、接触感染。
 - ☆ 対策: 手洗い、うがい、感染者との密接な接触を避ける。
- 感染者の便には、症状が回復した2～4週間後もウイルスが排泄されているので排便後やおむつ交換後の手洗いを徹底する。
 口内の痛みをのせいで、水分摂取が不足することがあり、こまめに水分を補給させる。



奈良県感染症情報

令和2年 第22週(5月25日～5月31日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.91	→ (0.88)	→	↗	→
2	突発性発しん	0.56	↗ (0.29)	↗	↗↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	0.18	↘ (0.18)	↘	↘	↘
4	手足口病	0.12	↗↗ (0.03)	↗	↗↗	↗
5	水痘	0.06	↗↗ (0.00)	↗	↘	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗↗**やや増加、**↗**増加、**↔**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症は、例年に比べて低い水準となり流行はみられませんが、これから夏の時期にかけてよくみられる手足口病の報告数がやや増加しています。

新型コロナウイルス感染症は、第22週(5月25日～31日)に県内で新たに1名の感染者が報告されています。感染拡大を防ぐために、一人ひとりが感染防止として新しい生活様式を実践することが求められています。夏に向けて熱中症にも注意が必要で、高温や多湿といった環境下でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなる恐れがあるので、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクを外すようにしましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

定期予防接種での来院以外は少ない。
報告する感染症はなかった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は依然少ない。
登録感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

夏カゼと思われるウイルス性咽頭炎が散見、また脛症の胃腸炎の発症もあるが、いずれも特異的所見みられず、全体に感染症の流行はない。



奈良県感染症情報

令和2年 第23週(6月1日～6月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 「新しい生活様式」における熱中症予防について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.85	→ (0.91)	→	→	→
2	突発性発しん	0.56	↗ (0.56)	↗	↗	↗↗
3	A群溶連菌咽頭炎	0.53	↗ (0.18)	↗↗	↗	↗
4	手足口病	0.12	↗↗ (0.12)	↗↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	0.09	↘ (0.03)	↘	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗↗**やや増加、**↗**増加、**↔**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

先週に引き続き定点医療機関からの報告数は少ない状態が推移しており、定点把握感染症の流行はみられません。

新型コロナウイルス感染症は、第23週(6月1日～6月7日)には県内で感染者の報告はありませんでした。流行状況は落ち着いているため、社会経済活動が再開しつつあり感染拡大防止と社会経済活動の両立が課題となっています。職場や学校での感染拡大を防ぐために、職員、学生に出勤、登校前の体温測定してもらい、体調不良者は自宅で静養させるようにしましょう。そのために、職場、学校において体調不良者が休みやすい雰囲気づくりをしていきましょう。

～「新しい生活様式」における熱中症予防について～

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、一人ひとりが感染防止の3つの基本である1. 身体的距離の確保、2. マスクの着用、3. 手洗いや、「3密(密集、密接、密閉)」を避ける等の「新しい生活様式」を実践することが求められています。一方で、これから夏を迎えるので、熱中症に気をつけたくて実践するようにしましょう。

マスクの着用について

マスクの着用により、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。マスクを着用する場合には、激しい運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。特に、高温や多湿といった環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高くなる恐れがあるので周囲の人との距離を十分にとれる場所では、マスクははずすようにしましょう。

涼しい場所への移動について

少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所へ移動すること、熱中症予防に有効です。人数制限等により屋内の店舗等にすぐに入ることができない場合は、屋外でも日陰や風通しの良い場所へ移動するようにしましょう。



奈良県感染症情報

令和2年 第24週(6月8日～6月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.50	(0.85) ↑	↑	↑	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.53) ↑	↑	↑	↓
2	突発性発しん	0.47	(0.56) ↑	↓	↑	↓
4	手足口病	0.12	(0.12)		↓	→
5	水痘	0.03	(0.03) ↑	↓	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症については、特定の疾患の流行はみられませんが、全体の報告数は増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の新たな感染者の報告はありませんでした。しかし、医療機関や接待を伴う飲食店などでクラスタが発生し、感染経路不明の感染者の報告がある地域があります。経済再開に伴い県をまたいだ移動が増加しつつあり、特に往來の多い関西圏の状況を注視しましょう。また、夏は肌の露出が増え、農作業やキャンプなど野山で活動する場合には、蚊やダニが媒介する感染症に注意が必要であり、肌の露出を避ける、虫除け剤を使用するなどの感染予防を行います。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

発熱患者はいたが、感染性胃腸炎以外の登録感染症はなかった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

Aデノ様の高熱例や、熱・嘔吐なしの水様下痢の感染性腸炎が見られる。
外来数はまだ少なく、その他の感染症は見られなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

全体に流行性疾患は少ない。
手足口病、アデノウイルス咽頭炎、溶連菌感染症に加え、熱・咽頭痛のみのウイルス性咽頭炎が見られている。



奈良県感染症情報

令和2年 第25週(6月15日～6月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

蚊・ダニ媒介感染症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.76	(1.50) ↑	↑↑	↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.47)	↑	↑	↑
2	突発性発しん	0.47	(0.47)	→	↑	→
4	手足口病	0.12	(0.12)	↑	↑	↓
5	水痘	0.09	(0.03) ↑↑	↑	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

先週に引き続き定点把握感染症の報告数は少ない状態で推移しています。新型コロナウイルス感染症の新たな感染者の報告はありませんでした。

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症が、第23週に引き続き第25週でも報告されています。昨年は県内の複数の医療機関でVREが報告されており、地域で広がっています。また、院内感染が疑われた事例もありました。VREはバンコマイシン(通常腸球菌に有効)という抗菌薬に耐性を獲得した腸球菌で耐性遺伝子が伝播しているものがあります。健常者の場合は、腸管内にVREを保有しているも通常無症状ですが、術後患者や免疫機能が低下した患者では創部感染症、腹膜炎、敗血症などを引き起こし死亡することがあります。主な感染経路は接触感染であり、汚染された医療従事者の手指や医療器具を介して伝播し、院内感染の原因となります。

◆蚊・ダニ媒介感染症について◆

病原体を保有する蚊に刺されたり、ダニに咬まれたりすることによって起こる感染症があります。蚊やダニの活動が盛んになる春～秋にかけては特に注意しましょう。

感染症の主な例

- ・媒介感染症: テング熱、チクングニア熱、シカウイルス感染症 等
- ・ダニ媒介感染症: ツツガムシ病、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 等

対策

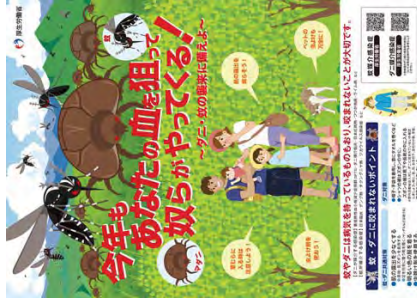
- ・肌の露出を少なくする(長袖・長ズボンを着用する、足を完全に覆う靴を履く、等)
- ・明るい色の服を着る
- ・虫除け剤の使用

その他にできること

- ・蚊の発生を抑える
蚊が好んで産卵する水たまりをなくす(例: 放置された空き缶やペットボトル、野積みされた古タイヤ) 詰まった排水溝の清掃を行う
- ・ダニに咬まれたとき
無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置してもらえ
咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が認められた場合は医療機関を受診する



特にダニは、衣服に覆われた部分に入り込んで咬みつく場合があります
・帽子、手袋を着用し首にタオルを巻く
・シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる 等の対策を行いましょう





奈良県感染症情報

令和2年 第26週(6月22日～ 6月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.62	(1.76) ↑	↑	→	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.68	(0.47) ↑	↑↑	↑	↑↑
3	突発性発しん	0.59	(0.47) ↑	↑	→	↑↑
4	手足口病	0.15	(0.12) ↑	↑	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.09	(0.00) ↑↑	↑↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

先週に引き続き、定点把握感染症の報告数は少ない状態が推移しています。第26週も第22週(5月25日～5月31日)から引き続き、奈良県内での新型コロナウイルス感染症の報告はありませんでした。破傷風が第26週に報告されました。破傷風は、日本全国では年間100名ほどが罹患しており、奈良県内での報告数は過去5年間、年に0～3件の間で推移しています。破傷風は土壌中に広く存在する破傷風菌が怪我などで傷ついた皮膚から侵入し産生する毒素の一つである神経毒素により開口障害、嘔吐下痢、痙攣性痙攣などを引き起こす人獣共通感染症です。1968年の予防接種法によるジフテリア・百日咳・破傷風混合ワクチン(DTP)の定期予防接種普及以降、日本国内での破傷風患者・死亡者の数は減少しており、破傷風は依然として致死率が高いです。DTPの予防効果は約10年であるため、土いじり、農作業、工事に関わるような感染リスクの高い方は再接種を検討しましょう。医療機関では破傷風含有ワクチンの接種歴と傷の汚染の程度によって対応が異なりますのでワクチン接種履歴を記録した母子手帳などを保管しておきましょう。また、ワクチン接種で予防可能な感染症は破傷風以外にも麻疹、風疹など他にもあり、それぞれかかりやすい年齢を加味した適切なタイミングがありますので遅らせずにきちんと接種しましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

少数例の感染性胃腸炎と溶連菌感染性があった。
二峰性の発熱があった発疹性疾患があり、ウイルス検査中。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は依然少ない。
幼稚園児でアデノ様高熱例、学童で水様便の感染性腸炎がみられる。
その他の登録感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染性疾患の大きな流行はみられない。軽症の呼吸器感染、ウイルス性咽頭炎が散見されるのみ。
手足口病、ヘルパンギーナの流行もみられない。



奈良県感染症情報

令和2年 第27週(6月29日～ 7月5日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.50	(1.62) ↓	↑	→	↑↑
2	突発性発しん	0.79	(0.59) ↑	↑	↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.68) ↑	↑	↑	→
4	水痘	0.15	(0.00) ↑↑	↑↑	↑↑	→
4	手足口病	0.15	(0.15) ↓	↑	↓	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は少なく、夏季によく流行する手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱も流行は見られません。
新型コロナウイルス感染症は、第27週(6月29日～7月5日)に3名の感染者が確認されました。3名はいずれも大阪市に往來があり、勤務先や買い物先等での感染が推定されています。県をまたいだ移動が緩和されていますが、新型コロナウイルスが消費しているわけではありません。「うつらないうつさない」ように手洗い、咳エチケットといった感染予防策をするとともに、集団発生のリスクが高まる3つの密となりに注意をしましょう。
また、気温・湿度が高い梅雨の時期は、熱中症のリスクが高まっています。屋外で人の距離が十分にとれている時は熱中症を防ぐためにマスクをはずしましょう。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために

手洗いと咳エチケット

宅時や食事前などに手洗いをし、手を清潔に保ちましょう。
咳やくしゃみやみをする際、マスクやティッシュなどで口や鼻をおさえ、飛沫が広がるのをおさえましょう。

3つの密

換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場所に注意しましょう。

熱中症に注意

マスク着用により熱中症のリスクは高まります。水分を十分に摂取し、適宜マスクをはずしましょう。

接触確認アプリ

厚生労働省から新型コロナウイルスに関するアプリが配信されています。感染者と接触した可能性の確認に活用しましょう。





奈良県感染症情報

令和2年 第28週(7月6日～7月12日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.15	(1.50)	↕	↗	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	0.74	(0.65)	↕	↕	↕
3	突発性発しん	0.50	(0.79)	↗	↘	↗
4	水痘	0.09	(0.15)	↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	0.06	(0.09)	↘	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↕**増加、**↘**やや増加、**↖**横ばい、**↙**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況 ◆

先週に引き続き、定点把握感染症の報告数は少ない状態です。1週間の感染者数が県内で過去最多となりました。第27週(6月29日～7月5日)は大阪市の往來がある人のみでしたが、県内の病院や事業所、学校で感染者とその接触者がPCR検査で陽性になっている事例が多くなっています。接触者の中には無症状にも関わらず検査で陽性が確認される事例もあります。発症前から感染力があると考えられている、「うつらない・うつさない」ための感染対策を徹底しましょう。人との間隔は2m(最低1m)以上あけ、会話するときも飛沫が飛ばないようにマスクをつけましょう。また、人が集まる休憩室や食堂等では窓やドアをあけてこまめに換気を行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

学童で水痘が見られた。接種歴があるが多数の皮疹を認め、完治に日数を要した。
他に軽度な呼吸器感染が散見される。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数はやや増加。発熱例が増加し、別室診察等に対処。家族内3人が発熱と感冒症状、10代の数日の高熱持続例等、PCRを勧めた例もあった。
軽症経過の感染性腸炎がやや流行。その他の登録感染症は少なかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染症の大きな流行はみられない。
溶連菌感染症、手足口病、水痘が散発。ウイルス性咽頭炎は軽症で経過している。

次回週報(第29週)は、令和2年7月27日(月)に発行いたします。

出典: 首相直樹・厚生労働省 HP



奈良県感染症情報

令和2年 第29週(7月13日～7月19日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

6月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)
新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内の注意事項

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.12	(2.15)	↗	↗	↗
2	突発性発しん	0.74	(0.50)	↕	↗	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.74)	↗	↘	↘
4	咽頭結膜熱	0.15	(0.06)	↗	↗	↗
4	手足口病	0.15	(0.06)	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↕**増加、**↘**やや増加、**↖**横ばい、**↙**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況 ◆

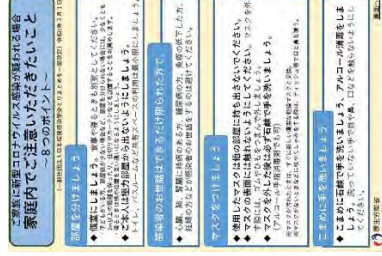
定点把握感染症の報告数は先週に続いて少なく、夏季によく流行する手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は例年よりも低い水準で推移しています。
新型コロナウイルスの患者報告数は、増加傾向が続いています。感染拡大を防ぐため、引き続き、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いや、3密(密集、密接、密閉)を避ける等の対策を取り入れた「新しい生活様式」を実践するようにお願いします。

また、夏を迎えるにあたり、「新しい生活様式」での生活を健康に過ごすため、例年よりもいっそう熱中症に注意するようにしましょう。マスクを着けると、皮膚からの熱が逃げにくくなる、気づかないうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。マスク着用時は激しい運動は避けるようにしましょう。また、喉が渇いていなくても、こまめに水分補給をするようにしましょう。

～新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項～

ご家族に新型コロナウイルスの感染が疑われる人(以下、感染者)がいる場合、同居のご家族は以下の点に注意してください。

1. 感染者と他の同居者の部屋を可能な限り分ける
2. 感染者の世話をする人は、できるだけ限られた方(一人が望ましい)にする
3. できるだけ全員がマスクを使用する
4. 小まめにうがい・手洗いをする
5. 1日中できるだけの換気をする。
6. 取っ手、ノブなどの共用する部分を消毒する
7. 汚れたリネン、衣服を洗濯する
8. ゴミは密閉して捨てる



詳しくは厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html
 出典: 厚生労働省 HP
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf>



奈良県感染症情報

令和2年 第30週(7月20日～7月26日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.50	(2.12) →	→	→	↓
2	突発性発しん	0.38	(0.74) →	→	↓	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.26	(0.35) ↓	→	↓	↓
4	咽頭結膜熱	0.15	(0.15) ↑	↑↑	→	→
5	水痘	0.06	(0.03) →	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓↓減少**

◆県内概況

定点把握感染症の報告数は少ない状態ですが、推定しており流行はみられません。感染性胃腸炎に関しては、大きく流行する時期ではないものの、例年に近い報告数となっています。

新型コロナウイルス感染症は、23日に、1日あたりで過去最多となる13名が新規感染者として発表されるなど、連日、複数の感染者が確認されています。感染経路として職場や学校、会食など家庭外で感染した家族の持ち込みによる家庭内での感染が推定されています。また、新型コロナウイルス感染症は症状が出る前や軽症であっても他人に感染させるので、気づかないうちに拡がっていることがあります。家庭内に持ち込まないために、不要不急な会食はできるだけ避け、普段から手洗いと咳エチケットを心がけましょう。

◆小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

上肢、下肢全体に皮疹の強い手足口病の例があった。他に、登録する感染症の流行は無い。
鼻風邪の乳幼児が見られるが、来院の患者数は少ない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

短期の発熱例が増加。アデノ様であるが検査せず確定診断に至っていない。
感染性腸炎がやや多い。水様便、腹痛、嘔気等の症状で短期・軽症。
手足口病、ヘルパンギーナ等の夏かぜ類は皆無。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性咽頭炎、ウイルス性胃腸炎が散見。大きな流行にはなっていない。
手足口病等、典型的な夏かぜはほとんどみられない。
エアコンの稼働や暑さの倦怠感が増えているが、体調不良の原因を新型コロナウイルス感染症と心配した受診がみられる。南部地区でも増加してきている。



出典:厚生労働省 HP

知らないうちに、拡めちゃうから。



奈良県感染症情報

令和2年 第31週(7月27日～8月2日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 肝炎について～沈黙の臓器、肝臓～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.76	(1.50) →	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.26) →	→	→	↑
2	突発性発しん	0.47	(0.38) ↓	→	→	↓
4	手足口病	0.24	(0.06) ↑	↓	↑↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.21	(0.15) ↑	↓	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓↓減少**

◆県内概況

夏季に流行する手足口病、咽頭結膜熱の報告数が増えています。これらはくしゃみやみなどの際に出る飛沫による飛沫感染と、それらがついたものに接触することによる接触感染が主な感染経路です。そのため、しっかりと手洗いとマスク着用で予防しましょう。また、手足口病の原因となるウイルスは、症状が回復した2~4週間後でも感染者の便中に排泄されるので、排便後やおむつ交換後の手洗いを徹底しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、8月1日に1日あたりで過去最多となる21名が新規感染者として発表されました。重症化のリスクとなる高齢者や基礎疾患のある人の感染者が増加しています。また、お盆休みの帰省などで県内外での往来が増えることも予想されますが、3密となる状況避けるなどしましょう。

肝炎について

～沈黙の臓器、肝臓～

毎年7月28日は世界・日本肝炎デーであり、この機会に肝炎の知識を深めましょう。肝臓は、生命を支えるために栄養の貯蔵や有害物質の解毒、消化に必要な胆汁の生成など重要な仕事を担っています。何らかの原因により肝臓に炎症が生じた状態を肝炎といい、ウイルス性肝炎は、肝炎ウイルスに感染することによって起こり、主な肝炎ウイルスはA型からE型の5種類あります。



自覚症状が無いこともあります

A型肝炎 →主に食べ物を通して感染
E型肝炎 →主に血液を介して感染
B型肝炎 →主に血液を介して感染
D型肝炎 →主に血液を介して感染
C型肝炎 →主に血液を介して感染

<B型とC型肝炎は、慢性的肝臓病を引き起こす原因になります>
我が国の肝炎ウイルスのキャリア(保有者)は、B型が110万人、C型が190万人、発症している方はB型が約17万人、C型が約47万人いと推定されています。自覚症状が乏しく感染に気づかず、肝臓や肝がへ移行する感染者が多く存在することが問題となっており、早期発見・治療が重要です。

感染経路としてB型肝炎では性交渉による感染が増加しています。血液、体液に触れない限り感染することとはほとんどなく、これらに触れないように気をつけていけば、日常生活において周囲への人の感染はほとんどありません。

※肝炎治療費の助成制度や、ご相談先については下記を参照ください。

☆肝炎対策について(奈良県HP) <http://www.cms.pref.nara.jp/dd.aspx?moduleid=4845&moduleid48456>
(県内では各保健所で検査を行っていますが、現在は休止中です。医療機関でも検査が可能です。)



奈良県感染症情報

令和2年 第32週(8月3日～8月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 7月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.68	→	→	→	→
2	突発性発しん	0.35	→	→	→	→
2	ヘルパンギーナ	0.35	↑↑	↑↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.29	→	→	→	→
5	手足口病	0.24	↑	↑↑	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**→**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は少ない状態ですが、夏期に流行するヘルパンギーナの報告数が増加しています。ヘルパンギーナは、2～4日の潜伏期の後、突然の高熱と咽頭痛を生じます。特異的な治療はありません。予防のため、感染者との密接な接触を避けることや手指の消毒をしましょう。
 引き続き、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が連日発表され入院患者数が増加しています。若年者だけでなく、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方が増えてきており、医療体制への影響が懸念されます。新型コロナウイルス感染症は主に飛沫や接触で感染します。特に周囲にこれらの重症化リスクの高い人がいる医療機関、介護施設、家庭では感染が広がらないように咳エチケット、手洗いをしっかり行い、それがきちんとできているかを確認しましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

短期の発熱を伴う水様便が主症状の感染性胃腸炎が保育園児に見られる。
 流行している登録疾患は見られない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

37.5度前後の微熱の例が多い。家族内同時期例もあり診療に嚴重配慮。受診控えが、高熱例は少なかった。短期の下痢例が少し。ヘルパンギーナ、手足口病はなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

特定の症状や感染症の流行は報告されていません。

新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。



(出典:厚生労働省 HP)



奈良県感染症情報

令和2年 第33週(8月10日～8月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 介護事業所等の感染症対策

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.32	→	→	→	↑
2	突発性発しん	0.29	→	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.12	→	→	→	→
4	ヘルパンギーナ	0.09	→	→	↑	→
5	手足口病	0.06	→	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**→**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の流行はみられません。
 全数把握感染症ではライム病が1例報告されました。推定感染地域が奈良県である初の症例です。春から初夏、秋はマダニの活動期であり、野山に入るときは肌の露出を少なく咬まれないようにしましょう。(ライム病等のダニ媒介感染症については次週「気になる話題」にて掲載を予定しています)
 新型コロナウイルス感染症の複数の感染者が発生した施設や学校が報告されています。また、飛沫の拡散を防ぐためマスク着用は大事ですが、連日の猛暑のため熱中症の危険が高く、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保されている場合には、マスクを外すようにしましょう。

介護事業所等の感染症対策

全国各地で、新型コロナウイルスの感染者が確認されています。
 介護事業所等の高齢者施設では、感染した場合、重症化するリスクの高い方も多く、施設に「持ちこまない」「広めない」ための対策の徹底が必要です。
 また、感染者や濃厚接触者が出た場合の対応をおさしましょう。

<重症化のリスク因子例>

- 65歳以上の高齢者
- 慢性呼吸器疾患
- 慢性腎臓病
- 糖尿病
- 高血圧
- 心血管疾患
- 肥満

平時からの感染対策

- 職員、入居者の日々の健康管理
- 手指消毒、マスク着用、定期的な換気
- 防護具の着脱方法の確認
- 施設の環境整備

発生時を想定した準備

- 個室管理、生活空間の区分け
- 勤務体制の変更、人員や物資の確保
- 検査のための検体採取場所の検討
- 入居者、家族、協力医療機関等との情報共有

<参考動画>厚生労働省 YouTube

- 「介護老人福祉施設(特養)のためのそうだったのか!感染対策」
- 「訪問介護職員のためのそうだったのか!感染対策」



奈良県感染症情報

令和2年 第34週(8月17日～8月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報
気になる話題 「データ」媒介感染症に気を付けましょう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	(1.32)	→	→	↗↗
2	突発性発しん	0.35	(0.29)	→	→	↓
3	咽頭結膜熱	0.26	(0.03)	↑	↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.26	(0.12)	→	→	↓
5	ヘルパンギーナ	0.21	(0.09)	↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の流行はみられません。
県内大学や高齢者施設でクラスターが発生しています。前者は寮での共同生活、後者は要介護度が高く職員と入居者が密接に接触する機会が多く、感染が広がりやすい状況での発生でした。早期察知のために体調不良者数の把握、感染拡大防止のために咳エチケットや手洗いなどの感染予防策の実施と体調不良者を休ませ接種者を減らすことが重要です。
県民のみならずには、新型コロナウイルス感染症に関連する意識、デマ、不確かな情報に惑わされず、風評被害や人権侵害といった過剰反応につながることもないよう、行政機関の提供する正確な情報に基づき、冷静に行動していただきますようお願いいたします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

水痘が保育園児に見られる。
夜間の暑さのためか? 朝の体調不良を訴える子供がいる。
予防接種以外の来院者は少ない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

熱、咳等感冒症状の例の来院は少ない。
軽症の手足口病が1例。他は水様下痢、湿疹、アレルギー等がわずか。
他の感染症はなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

咽頭発赤、咽頭痛、発熱のみのウイルス性咽頭炎が散見。
重症感はないが胃腸炎を伴うこともある。
手足口病も少数のみ見られるも大きな流行はない。

出典:厚生労働省 HP
©2017 プロジェクトラブライブ! サンシャイン!!



奈良県感染症情報

令和2年 第35週(8月24日～8月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

● 病原体(ウイルス)検出情報(4～8月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.24	(1.85)	→	→	↓
2	ヘルパンギーナ	0.56	(0.21)	↗↗	↗↗	→
3	突発性発しん	0.41	(0.35)	→	→	↗↗
4	咽頭結膜熱	0.24	(0.26)	↑	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.15	(0.26)	↓	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

ヘルパンギーナの報告が増えています。中和保健所管内で、特に1歳の報告が多いです。いわゆる夏かぜの代表的疾患で、乳幼児を中心に夏季に流行し、突然の発熱と咽頭痛を生じます。また、発症から2～4週間後頃まで便中にウイルスの排泄は続くと言われておりますので、おむつ交換後の手洗いを励行してください。また、タオル、おもちゃ等の共有は避け、使用した物はこまめに消毒しましょう。

県内において、新型コロナウイルス感染症患者の死亡が2例発生しており、いずれも高齢者の方でした。新型コロナウイルス感染症は、罹患しても約8割は軽症で経過し、治癒する例が多いですが、高齢者や基礎疾患をお持ちの方は、重症化するリスクが高いことが報告されています。職場や家庭で周囲にこれらの方がいる場合は、ウイルスを持ち込まない、拡げないことを特に留意し、自分の体調管理、感染対策をしっかり行つていきましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報◆

* 令和2年4～8月におけるウイルス分離回定での集計結果

検出病原体	北部			中部			南部			臨床診断名	検体採取日
	インフルエンザ	AH1pdm09	B	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ		
インフルエンザ	3			2			1			インフルエンザ(6)	12/21～2/19
インフルエンザ	1			3			1			インフルエンザ(6)	1/27～2/10
コクサッキーB群	3			1			1			感染性胃腸炎(1)	11/28
コクサッキーB群	5			1			1			感染性胃腸炎(1)	2/8
エコー	18			1			1			感染性胃腸炎(1)	11/26
エコー	30			1			1			感染性胃腸炎(1)	12/6
ライノ				4						無菌性髄膜炎(1)、発疹症(1)、副鼻腔炎(1)、その他(1)	2/7～6/12
サイトメガロ				2						不明熱(1)、サイトメガロウイルス感染症、急性リンパ性白血病・ウイルス性膀胱炎(1)	2/13～6/1

※感染症発生動向調査において、新型コロナウイルス対応のため、医療機関より提供いただいた検体の検査が遅延しております。



奈良県感染症情報

令和2年 第36週(8月31日～9月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.76	(1.24)	→	↗	↘
2	ヘルパンギーナ	0.53	(0.56)	↑	↑	→
3	突発性発しん	0.47	(0.41)	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.15)	↗	↑	↘
5	水痘	0.24	(0.12)	↗	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↙**減少

◆ 県内概況 ◆

先週に引き続き ヘルパンギーナの報告数が多くなっています。6ヶ月～3歳の18人が報告され、このうち2歳が8人と最も多く報告されていました。ヘルパンギーナの症状は、発熱のほか、口腔粘膜の水疱性発疹による痛みのため、拒食や嘔吐障害等をおこすことから、脱水症に注意が必要です。

秋は台風による自然災害が増える季節となります。避難所では、平時より密集になりやす急性呼吸器感染症や感染性胃腸炎が流行しやすいため咳エチケットや手指の消毒を徹底しましょう。また、被災地の復旧のための野外の活動の際は、ダニや蚊などに刺されたり、けがをしないように肌を露出しない服装や厚底靴を着用し、また河川の氾濫や古い家屋に起因する粉じんにはレジオネラ属菌等の病原微生物を含むことがあるため、状況に応じ防護マスク等を使用することで感染症を防ぎましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(田中小児科医院)

水痘、ヘルパンギーナが散見される。
 咳を主訴とする来院が増えているかも。来院数の増加はない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は少ない。
 咽頭発赤の夏風邪が多い。手足口病、ヘルパンギーナ等は殆どないが水痘を認めない非典型的な手足口病様の例が散見される。
 感染性腸炎もあり、短期の下痢例がみられる。
 他の登録疾患は見られなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行あり。いずれも対症療法で軽快し、髄膜炎合併例はなかつた。
 また胃腸炎も増加傾向、ロタウイルス腸炎学童あり。ウイルス性咽頭炎は減少傾向。



奈良県感染症情報

令和2年 第37週(9月7日～9月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 8月24日から9月30日は結核予防週間です～結核は昔の病気ではありません～
- 9月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.94	(1.76)	↗	↗	↘
2	ヘルパンギーナ	0.59	(0.53)	↑	↑	↗
3	突発性発しん	0.50	(0.47)	↗	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	0.38	(0.35)	↑	↗	→
5	手足口病	0.15	(0.09)	↗	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↙**減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告数が夏頃から徐々に増加しています。有効な予防方法はこまめな手洗いですので、特に調理前や食事前、トイレの後などには流水と石けんによる手洗いを行うようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症への感染の懸念から、医療機関への受診を控える傾向が強まっています。過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう危険性があります。具合が悪いなど、健康に不安がある時には、かかりつけ医に相談するようにしましょう。また、定期接種はワクチンで病気になりにくくする観点で、乳幼児検診は子供の健康状態を定期的に確認し相談する機会として非常に重要です。定期接種、乳幼児検診を適切な時期に受けるようにしましょう。

9月24日から9月30日は結核予防週間です～結核は昔の病気ではありません～

・結核は、今でも全国で年間15000人以上の新しい患者が発生し、約2000人が命を落としている日本の重大な感染症です。

・奈良県の結核罹患率(人口10万対)は、2019年では14.0と全国平均の11.5よりも高く、2020年に入っても毎月13～20件の届出があり、65才以上の方の割合が多い傾向にあります。また、第37週には、職場健診によって感染が確認された外国籍の方複数名の報告がありました。

・近年、外国生まれの患者数が増加傾向にあり、結核患者数が多い国からの中長期滞在する方に対して入国前結核スクリーニングが導入される予定です。

・結核の症状には特徴的なのがなく、早期には目立たないことが多いため、咳・たん、微熱、からだのだるさなどが2週間以上続く場合は、医療機関にご相談ください。

・早期発見・早期治療のためにも、結核検診を受けましょう。



「元気ですか?節」～結核検診を受けよう～
 ・咳やたん、微熱、からだのだるさなどが2週間以上続く場合は?
 ・いつの間にか咳が止まらなくなったり痰が黄色くなったりしていませんか?
 ・結核の症状は目立たないことが多いので、咳やたん、微熱、からだのだるさなどが2週間以上続く場合は、医療機関にご相談ください。



(出典)厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsite/bunysy/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kanzenhou03/index.html